



女性がいくつになっても 生き生き働ける場所なんて そうざらにはないでしょ!

営業本部

事業用資産活用推進事業部 部長

勝目 紀子

(かつめ のりこ)

自他共に認めるパワフルな人柄と、
面倒見の良さで、多くの後輩に慕われる存在。
社内ではバーバラさんと呼ばれているが、
その理由はご本人に聞けば教えてくれるそう。



やる気満々なのに、 なかなか思うに任せなかった日々

私は東京日本橋の生まれで、3代は続いているのですが、自分では江戸っ子のつもりでいます。

そんな私は、住宅の管理会社に勤めて事務職を経験し、お客様が来れば接客もしていました。しかし、その会社は55歳定年でしたので辞めることになり、友人がやっていた服飾系の会社を経て、再び不動産会社に勤めました。不動産の仕事は嫌いではなかったのですが、もっと続けたいと考えていたのですが、60歳という年齢になった時に、リストラのような形で退職することになってしまいました。なかなかうまくいかないものです。

ハローワークで思ったこと、 そしてテンポアップとの出会い

当時、私はまだまだ働きたかったのですが、ハローワークに行きました。しかし、そこで紹介される仕事は、受け身の仕事が多く、そもそも選択肢がありません。元気な女性が高齢になってもやりたい仕事をするということができないのか、私自身は不思議でした(※)。夏の暑い最中にふらふらと目的もなくさまよい歩き、地下鉄に乗って、手に取った求人誌を何気なく見ていたら、思わず目に飛び込んできたのが、「50歳、60歳 頑張ってます!」というキャッチコピーでした。掲載されていたのは、テンポアップでバリバリ働く方でした。私はその場で電話をし、面接を

受け、業務委託、つまりフルコミッションということも含めて覚悟を決め、お世話になることに決めたのです。

不動産経験があるとはいえ、 店舗専門は未経験者と同じでした

過去の仕事で、多少客付のようなことはやっていたのですが、元付、客付、お客様のニーズの把握、専門用語の数々など、店舗専門の業務となると、もう素人同然でした。なかなか成果が出せず、見かねた会長が紹介してくれた元付の1件を確保するのがやっとでした。ただ私は、地元である田園都市線沿線を非常に愛しているので、一念発起し、その近辺の不動産会社や建築会社などを片っ端から周り、さらに、友人・知人・会う人ごとに名刺を配り、「店舗をやっている勝目です」と、もうほとんど刷り込みのようなことをしました。そうしているうちに、ある時点から仕事からみの電話がよくかかってくるようになってきたのです。

刷り込みが効いたせいかどうか、藤が丘という駅があるのですが、この駅を中心に、どうしても元気がない商店街があることがわかり、テナントの募集看板を掲げさせていただくチャンスももらいました。そこで、私は携帯番号とともに、「電話にはすぐ出ます!」と大きく書き込みました。これが功を奏したのかいろいろな引き合いの電話をいただき、業種も被らずに、靴屋さん、カラオケ屋さん、中華屋さんなど、10件以上の案件をまとめる、といったこともできたのです。何事も小さな工夫が大事なんだと思います。これからもまちづくりを担う一員として、まだまだ頑張りますよ!

(※) 高齢になる程、職業の選択肢がなくなる…こんなバカなことはありません。いくつになっても成長できるはず。

→パイブルより「成長と成功」を参照